

※ 太枠は重要防除になります。

月(時期)	対象病虫害	区分	使用農薬(倍率)
12月～1月上旬 休眠期 (落葉後～開花期まで)	コスカシバ		フェニックスフロアブル200倍 樹幹部及び主枝に散布 開花期まで1回
12月下旬 ～ 1月上旬 (開花前)	越冬病虫害 カイガラムシ類		石灰硫黄合剤 10倍
1月 (十郎2分咲き期 ～ 十郎満開期)	灰星病		ベルコート水和剤 2000倍
	注)開花2分咲き期から満開期に防除を行う。なお、十郎栽培園では十郎の開花時期に合わせて防除を行う。 注)灰星病で枯れた枝を開花期までに剪除して、園内に残さないことが重要。		
3月中旬～下旬	かいよう病		コサイド3000 2000倍 硬核期まで (薬害軽減のためクレフノン200倍を加用する)
3月中旬～下旬	アブラムシ類		スミチオン乳剤 2000倍又は チェス顆粒水和剤 5000倍
	灰色かび病・黒星病		ベルコート水和剤 2000倍
	注)灰色かび病の防除適期は落葉期(花びらの80%が散った時期)であるが品種により開花時期が異なるので状態に合わせて散布する。		
4月上旬 ～ 4月中旬	黒星病	劇	デランフロアブル 2000倍 又は ペンコゼブフロアブル 1000倍
	アブラムシ類・ケムシ類・ カメムシ類		ダントツ水溶剤 2000倍
	かいよう病		マイコシールド 1500倍
	注)デランフロアブルは、かぶれやすいので注意する。また、かぶれる人はペンコゼブフロアブルを使用する。 注)かいよう病は降雨時に感染するので、降雨前の散布を心がける。		
4月下旬	かいよう病		マイコシールド 1500倍 (収穫21日前まで)
	黒星病		ストロビードライフフロアブル 3000倍 (収穫7日前まで)
	カイガラムシ類		アプロードエースフロアブル 1000倍 (収穫7日前まで)
	注)この時期にコスカシバ対策として、スカシバコンL 100本/10a(8g/100本製剤)を設置する。 注)アブラムシ類を多く見かけた場合は、アプロードエースフロアブルの代わりにコルト顆粒水和剤2000倍を散布する。		
5月上旬	黒星病 すす斑病		スコア顆粒水和剤 3000倍 (収穫前日まで)
	注)カメムシ類発生時には、スタークル顆粒水溶剤2000倍を散布する。		
5月中下旬	黒星病 すす斑病		パレード15フロアブル 2000倍 (漬け梅に散布、収穫前日まで)
6月上中旬	黒星病 すす斑病		インダーフロアブル 5000倍 (漬け梅に散布、収穫前日まで)
7月中旬～下旬	黒星病 環紋葉枯病		トップジンM水和剤 1500倍
	モモヒメヨコバイ		テッパン液剤 2000倍
7月中旬～12月	白紋羽病		フロンサイドSC 500倍 (50～100%樹 土壌灌注) ※土壌灌注は1回
8月～9月	ケムシ類		ダントツ水溶剤 2000倍
	注)モモヒメヨコバイを多く見かけた場合はマブリック水和剤20 4000倍を散布する。		
10月上旬～ 11月上旬	注) かいよう病発生園では、2週間間隔で2回 ICボルドー66D 50倍の散布を行う。(沈澱しやすいので、攪拌しながら散布する)。カイガラムシ類の多発園では11月上旬にアタックオイル 50倍を散布する。(11月中旬以降の散布は花芽を痛めやすいので行わない)アタックオイルを散布する場合はICボルドー66Dとの散布間隔を2週間(14日)以上空ける。		

※ 3～5月の「かいよう病・黒星病・すす病」の防除を徹底。黒星病、すす病の防除は2週間間隔で散布する。

※ 黒星病の潜伏期間は30日ほどになる。

※ 灰星病の罹病枝は、萌芽期から新葉展開期頃が発見しやすいので、この時期に重点的に取り除く。

※ すす斑病は4月～6月の防除を徹底しないと防ぐのは難しい。

散布量は300%／10aを目安にタブリ散布する。

「農薬の使用は、使用基準を確認し、周りの他作物に農薬が飛散しないようにすること」